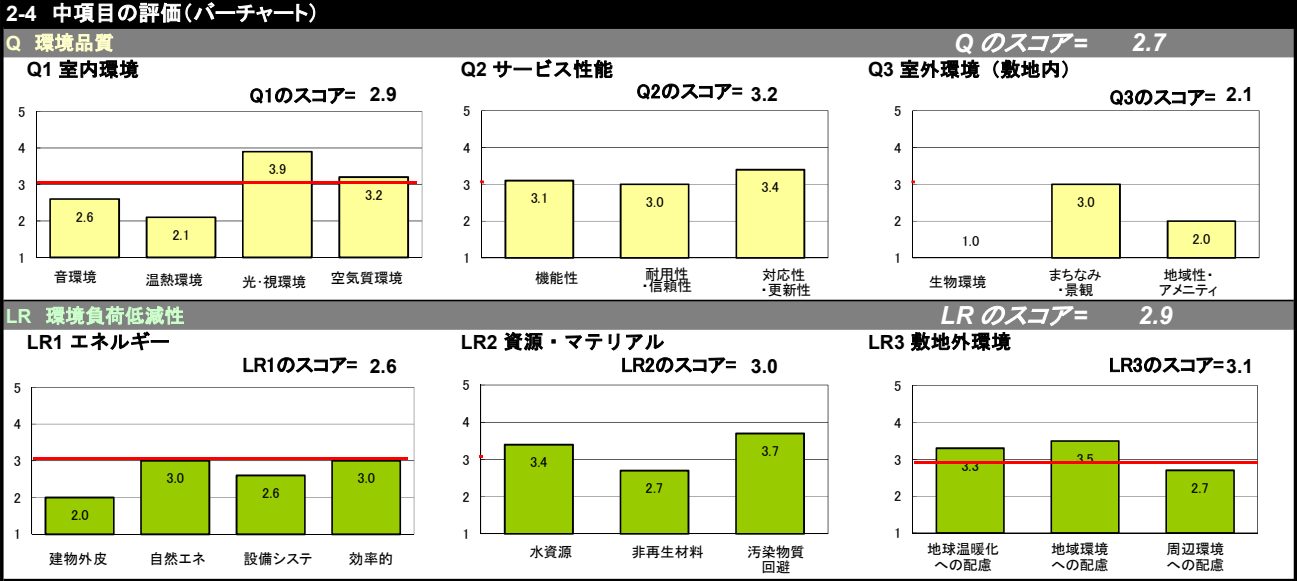
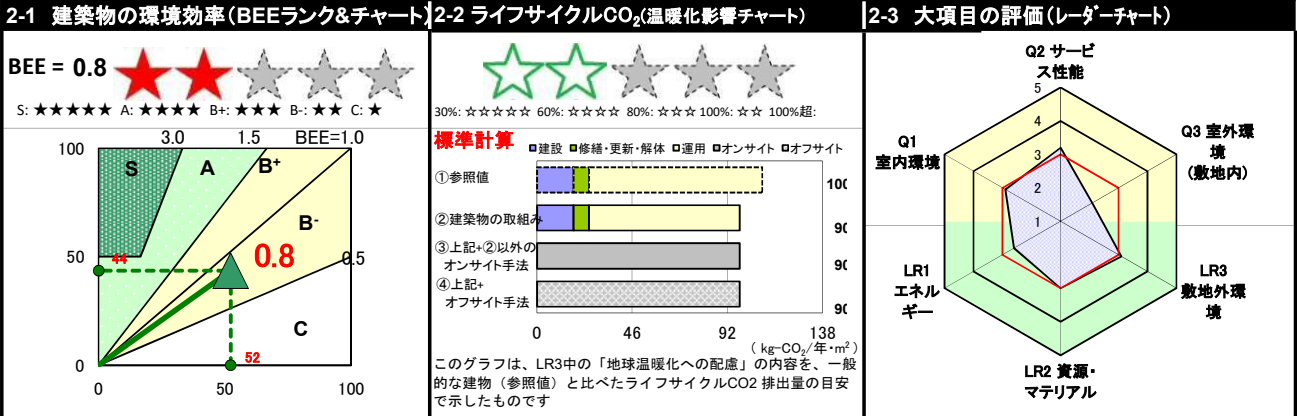


CASBEE®名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 評価マニュアル(2016年改訂) ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称)ドラッグストア白田新築工事	階数	地上2F	
建設地	名古屋市天白区島田五丁目101番・102番1・102番2・104番・103番の一部	構造	S造	
用途地域	第1種住居地域、準防火地域	平均居住人員	20 人	
地域区分	6地域	年間使用時間	4,400 時間/年(想定値)	
建物用途	物販店、工場、	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2023年3月8日	
敷地面積	1,998 m ²	作成者		
建築面積	1,347 m ²	確認日	2023年3月8日	
延床面積	2,651 m ²	確認者		



3 設計上の配慮事項			その他
総合 ・外皮性能を高め、高効率な設備機器の導入により環境負荷の低減を図るとともに、ライフサイクルCO ₂ 排出量の低減に努めている。			
Q1 室内環境 ・全館禁煙として室内の良好な空気質環境の確保を図っている。	Q2 サービス性能 ・将来の用途変更の可能性等を考慮し、建物の階高、空間の形状・自由さのゆとりを計画している。	Q3 室外環境(敷地内) ・特になし	
LR1 エネルギー ・特になし	LR2 資源・マテリアル ・躯体と仕上材の分離が容易であり、解体時におけるリサイクルを促進させる対策がある。 ・発泡系断熱材は使用していない。	LR3 敷地外環境 ・燃焼設備を設けず、建物からの大気汚染物質発生に配慮している。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

〔仮称〕ドラッグスギヤマ天白店新築工事

■ 使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■ 評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				2.8
LR1	エネルギー	2.6	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.3	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.100955371	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.010095537	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.050477686	
3. 循環型社会				2.8
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.3	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 2.8



2. 自然共生

評価点 = 1.3



3. 循環型社会

評価点 = 2.8



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。